

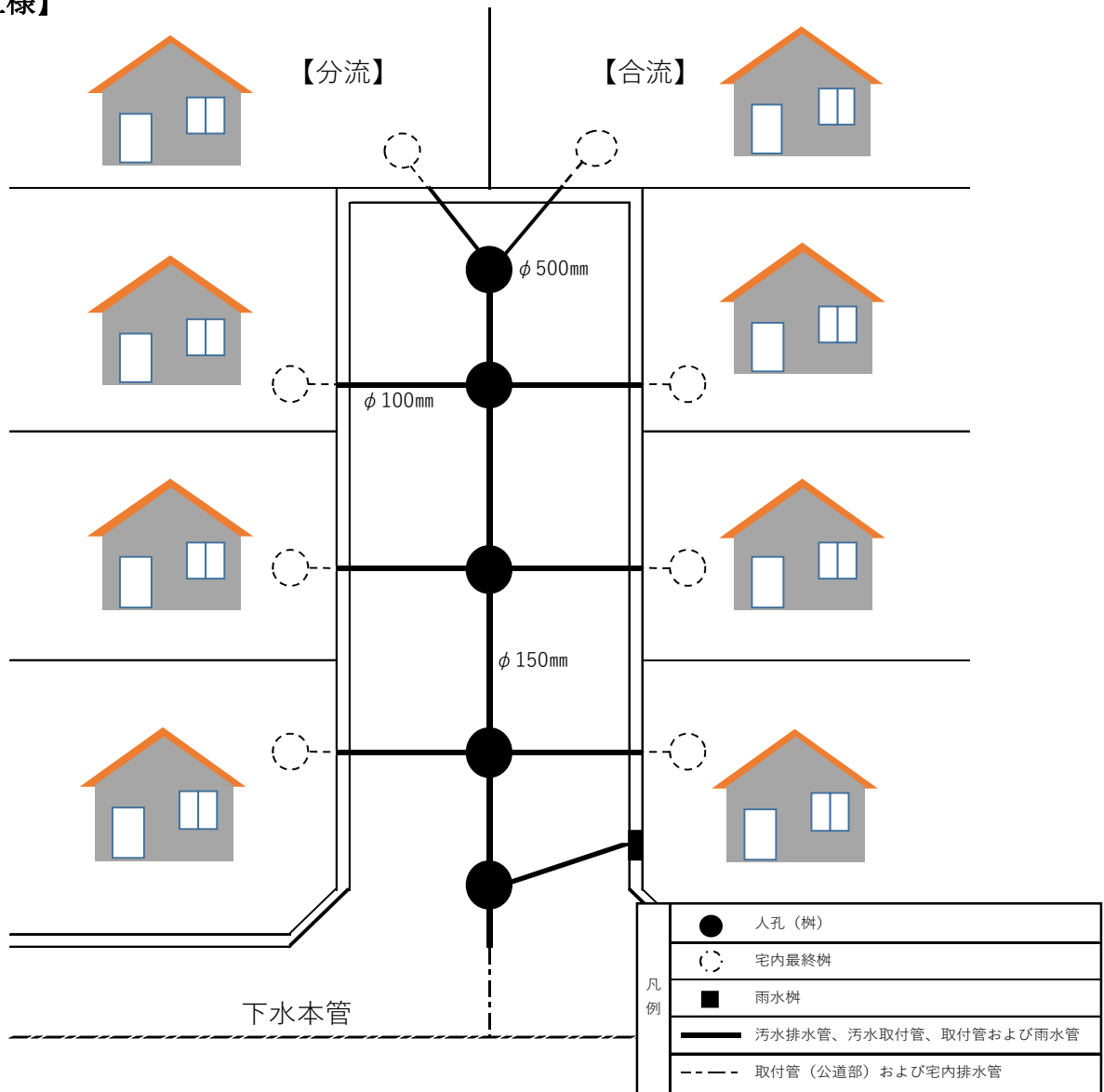
# 私道共同排水設備整備工事

## 設計基準

川口市上下水道局

令和2年4月1日

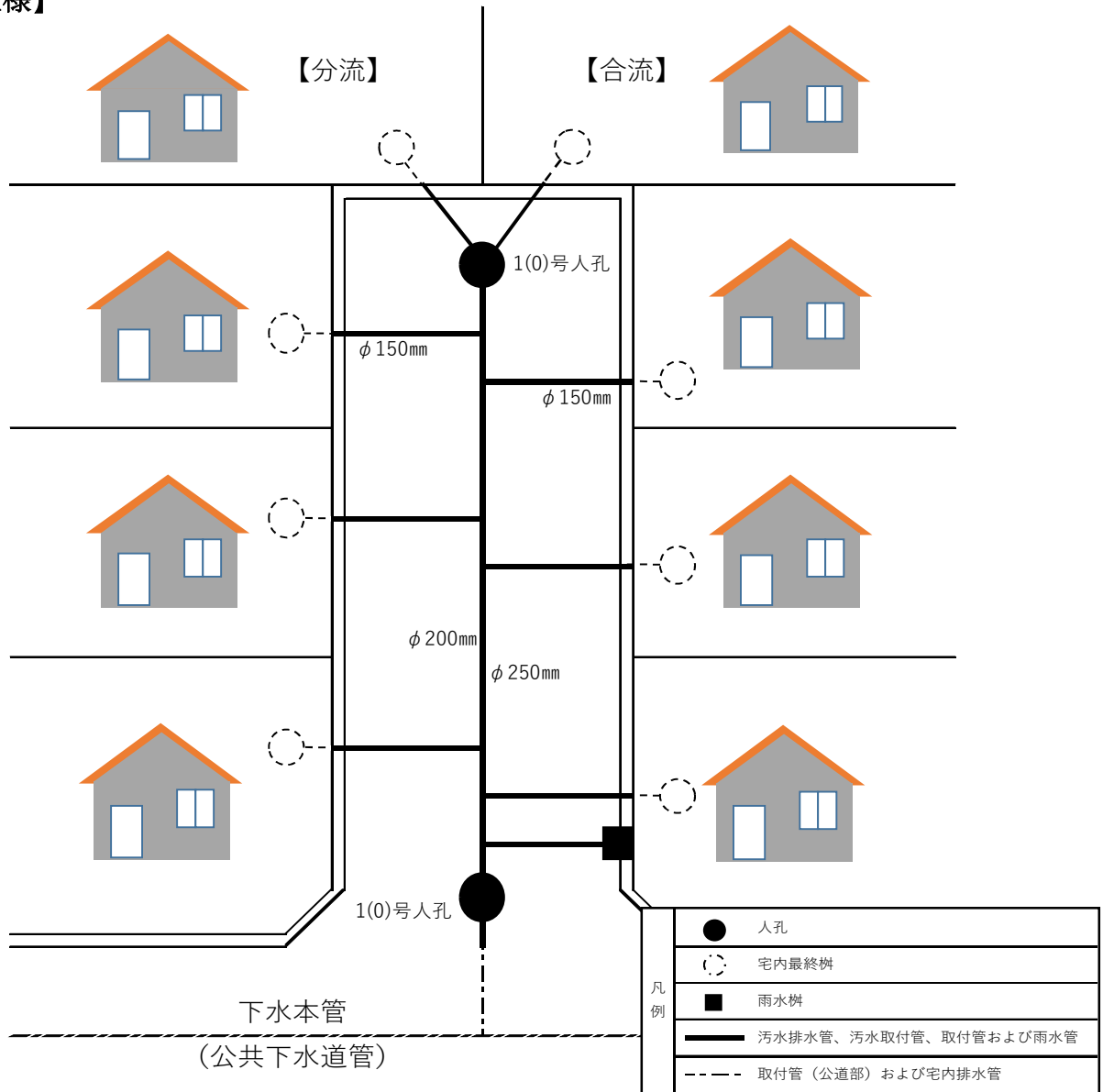
【標準仕様】



汚水排水管および取付管の管径・材質	VU φ 150 mm (JIS 又は JSWAS 規格品)
汚水取付管の管径・材質	VU φ 100 mm (JIS 又は JSWAS 規格品)
勾配	1.5 %以上
土被り	80 cm以上
管基礎厚	砂基礎で 10 cm
柵	φ 500 mmの柵 (JIS 又は JSWAS 規格品) ※最上流(起点)・屈曲点・各宅地からの取付箇所・最下流等に設置 ※最下流は官民境界から 1 m以内に設置 ※埋設深さによっては、φ 750 mm以上の人孔設置が必要
柵基礎厚	碎石基礎厚で 10 cm以上
柵の間隔	18 m以内(内径の 120 倍まで)
蓋	コンクリート蓋もしくは鉄蓋 ※無標示又は汚水標示
副管	落差 60 cm以上の場合に設置が必要

※上記表の基準を満たせない場合は、担当者と協議すること。

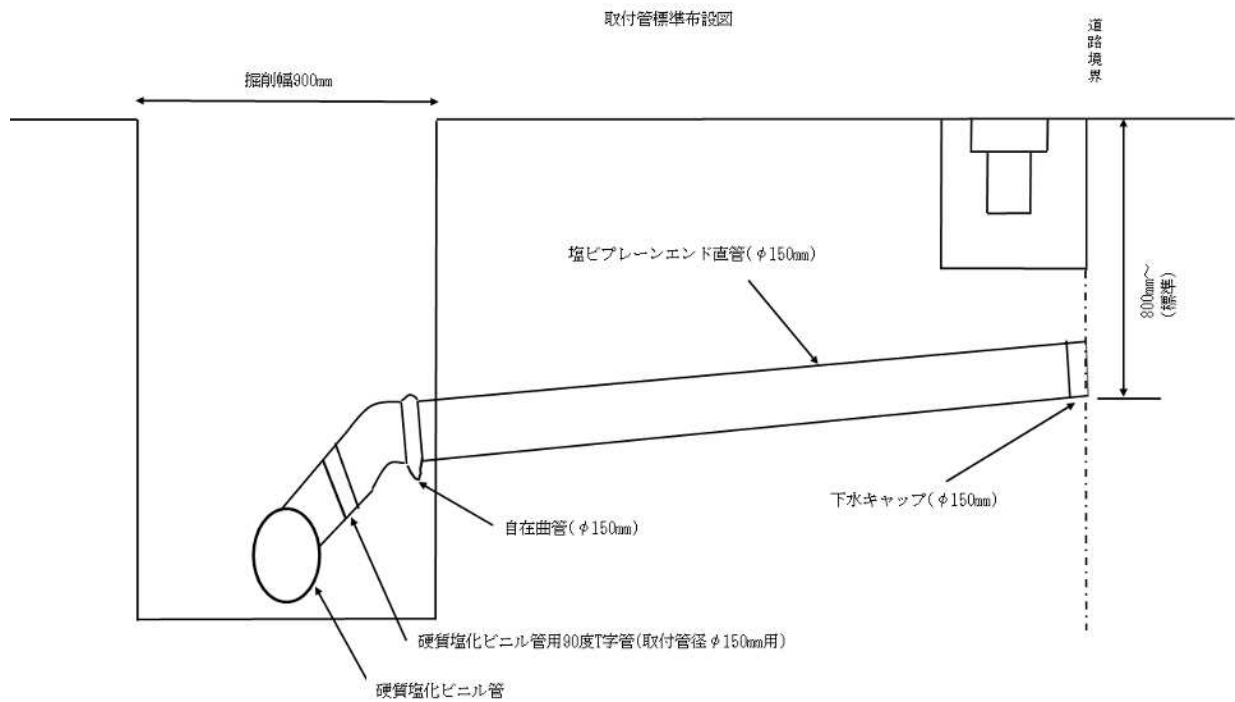
【公道仕様】



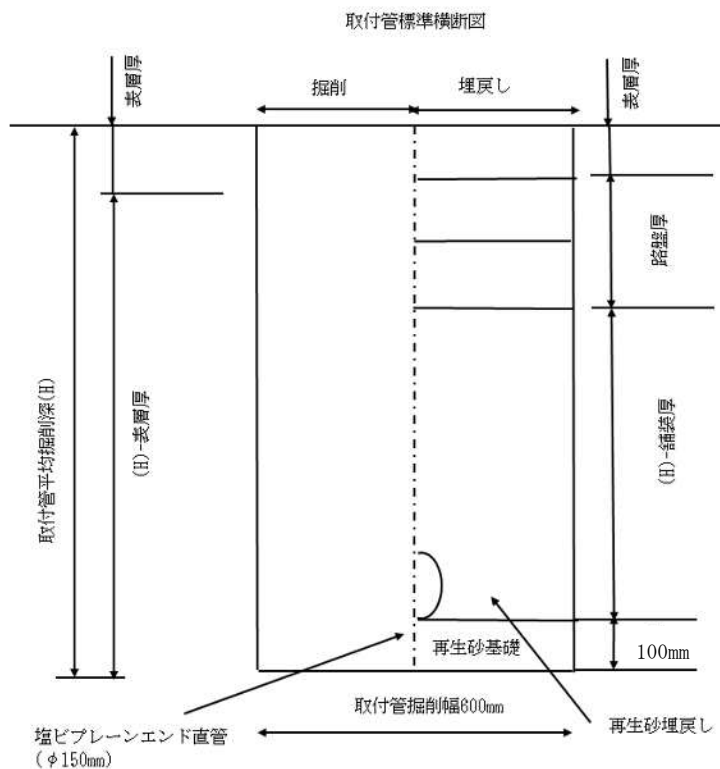
污水排水管の管径・材質	VU φ 200 mm (JIS 又は JSWAS 規格品) VU φ 250 mm (JIS 又は JSWAS 規格品) (合流区域)
污水取付管および取付管の管径・材質	VU φ 150 mm (JIS 又は JSWAS 規格品)
勾配	0.5 %以上
土被り	80 cm以上
管基礎厚	砂基礎で 10 cm
人孔	0 号又は 1 号人孔 (JIS 又は JSWAS 規格品) ※最上流(起点)・屈曲点・最下流等に設置 ※最下流は官民境界から 1 m以内設置
人孔基礎厚	碎石基礎で 20 cm
人孔の間隔	24 m以内 (VU φ 200 mm) 30 m以内 (VU φ 250 mm)※どちらの場合も内径の 120 倍まで
蓋	鉄蓋で無標示
副管	落差 60 cm以上の場合に設置が必要

※上記表の基準を満たせない場合は、担当者と協議すること。

# ○取付管布設図



※掘削の深さに応じて自在曲管の角度を変えること。

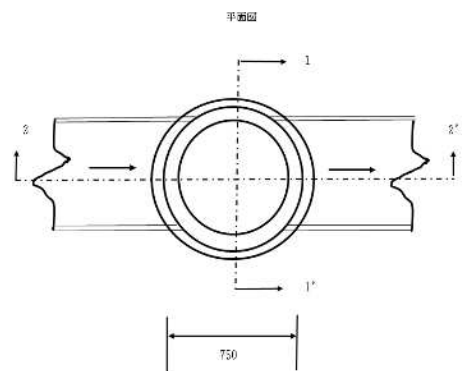
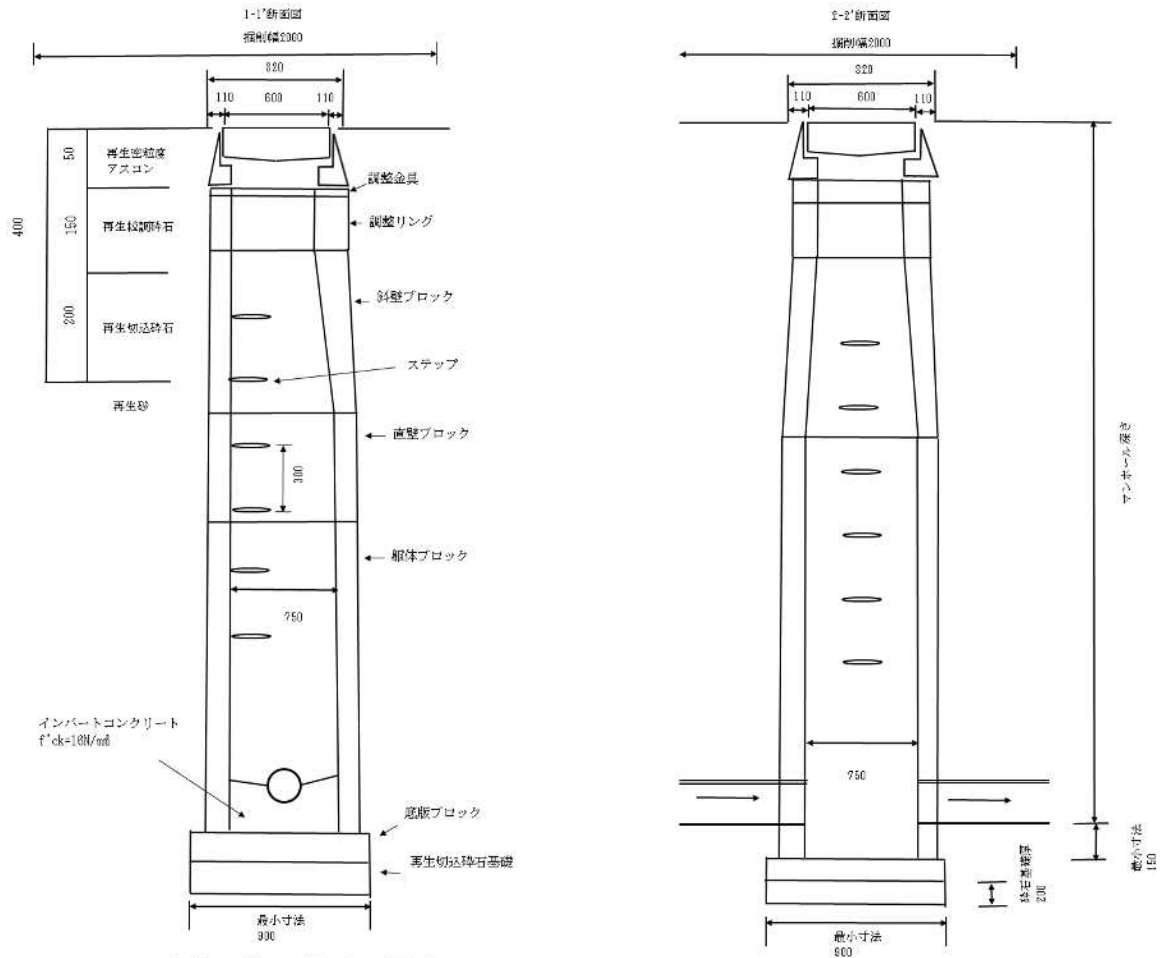


内 径	φ 100 mm	φ 150 mm	φ 200 mm	φ 250 mm
掘削幅(矢板無)	60 cm	60 cm	90 cm	90 cm
掘削幅(矢板有)	90 cm	90 cm	1 m	1 m

# ○人孔関連図

例：組立て0号人孔

(単位：mm)



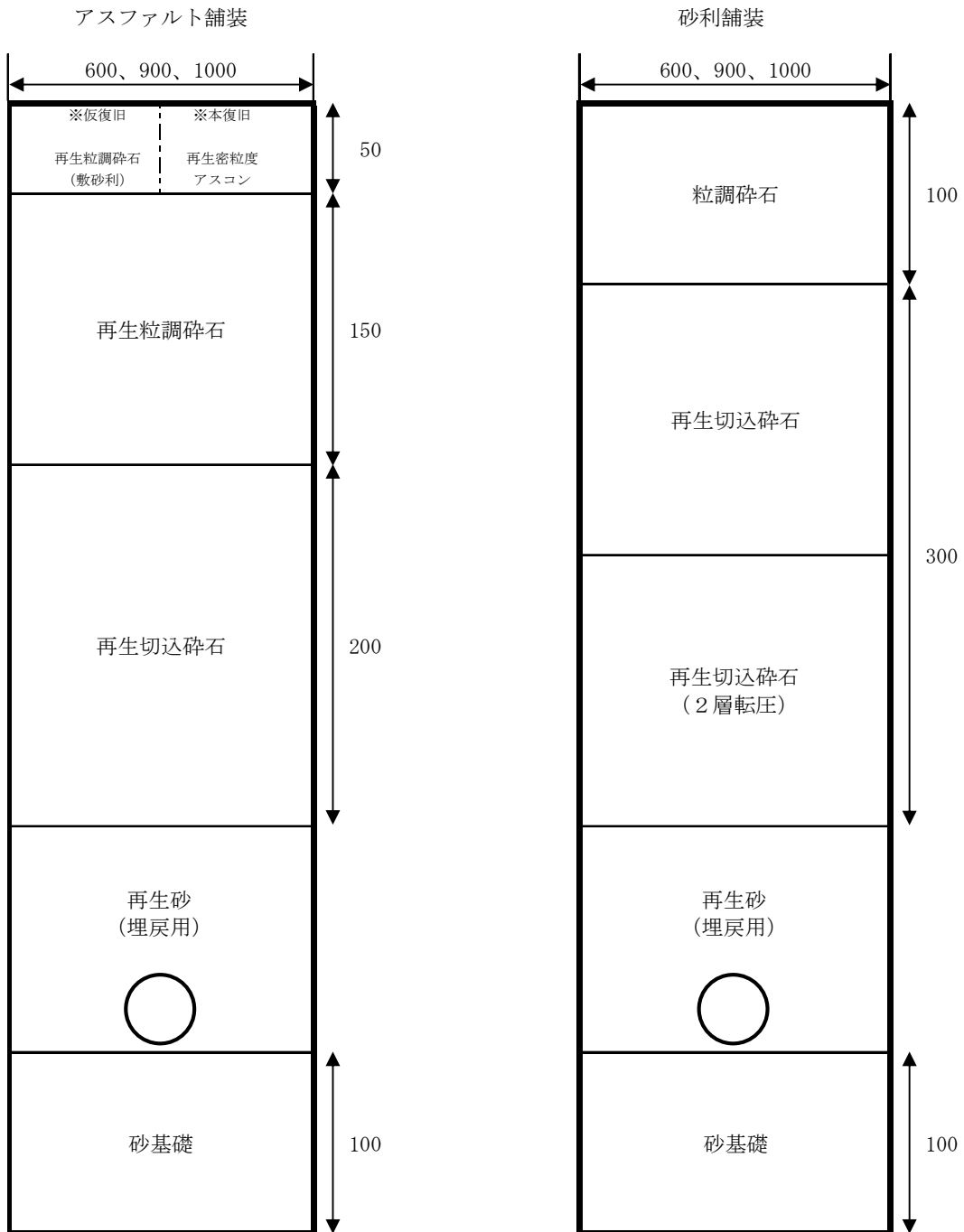
	φ 500 mm 柵	0号又は1号人孔
掘削基礎幅	1.6 m × 1.6 m	2 m × 2 m
砕石基礎厚	10 cm	20 cm

- ※上記表の基準を満たせない場合は、担当者と協議すること。
- ※柵・人孔における上流側管底と下流側管底の落差は2 cm以上つけること。
- ※共同排水設備となる本管と本管との接合は、受け口付直管又は継手を使用すること。
- ※柵・人孔の外側の管との接合部は型枠を使用し、コンクリートで防護すること。

○舗装工

復旧組成図

(単位：mm)



※事前に求積図（予定）を提出すること。

※表層が砂利以外の復旧組成は、アスファルト舗装を基準とすること。

※砂利道路以外は、仮復旧（敷砂利）を行うこと。

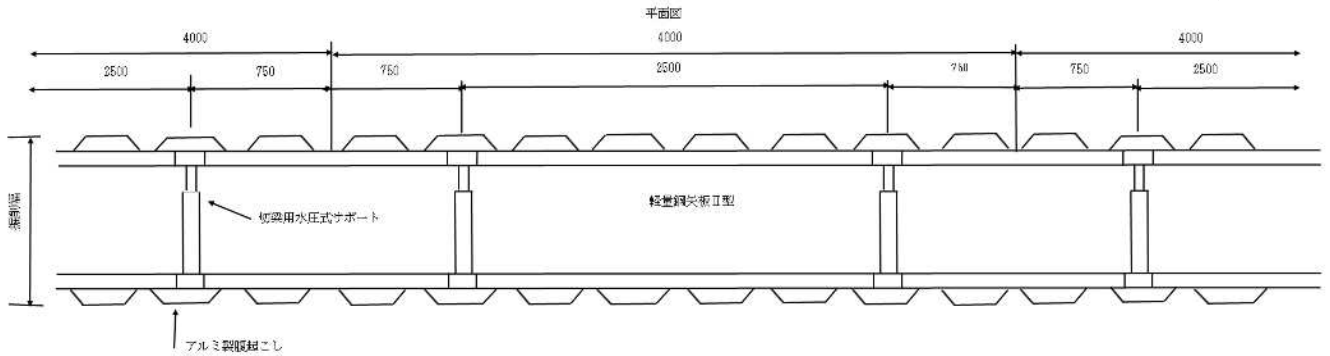
## ○土留工

汚水取付管を除き、掘削の深さが 1.5 m を超える場合は、土留工を行うこと。

ただし、砂質土、地下水位が高いなど崩壊の恐れがあるときは、1.5 m 以下でも行うこと。

### 山留標準図(軽量鋼矢板建込み工法)

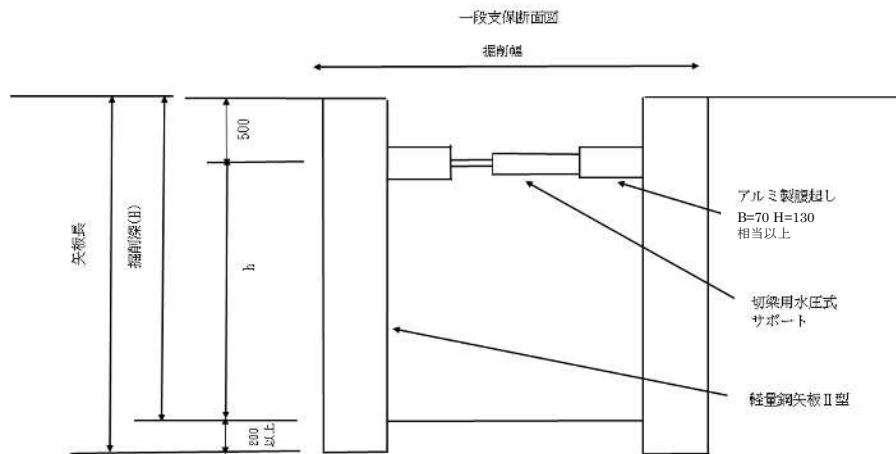
(単位：mm)



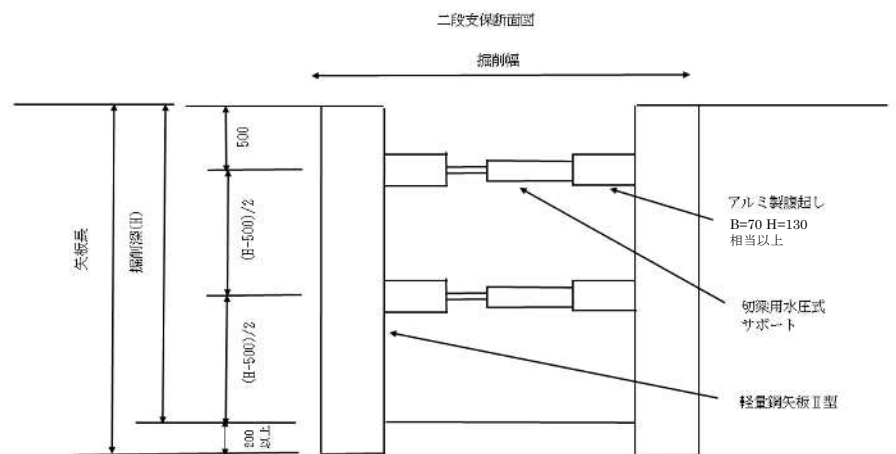
### 支保工

(単位：mm)

○掘削の深さ：2 m 以下（設置 1 段）



○掘削の深さ：2 m を超え 3.5 m 以下（設置 2 段）



## ○水替工

共同排水設備布設時などに地下水が見られた場合、水替工に要した日数を計上する。

## ○試掘工

延長 1 m × 掘削幅 0.6 m × 掘削の深さ 1.3 m を基準とする。

## ○保安工

周辺の交通（特に歩行者）に支障が生じる場合は、交通誘導員の配置を認める。

交通誘導員の配置は、原則として1日につき1名とする。

ただし、公道を通行止にする場合など、配置が2名以上となるときは、担当者と協議すること。